其遊可里部俤

錦昇堂 秀梓

十七編上

へ13
3730
33

柳亭 種秀作

一秀 富 國貞 畫

十七編下

升題曲五冊

へ13
3730
34

其遊可里部俤

錦昇堂
秀梓

十七編上

へ 13
3730
33

門へ13
號3730
巻33

若菜下巻

其遊の里
國貞画
第十七篇の2
綠昇
堂梓

一

一

一

一

式人の發句に菜を菜とは喰せぬ梅の手際哉とは庖丁家の妙處を穿ちたるなりとぞ
淺草海苔は最上の美味なれど徒炙て嚙のみにては珍奇との賞翫はなかじと紅藍
媛が詞花を室町に咲せ直衣野服の織文を外套袴に染させて古今雅俗の寄せ物
も味美く人氣を取看諸君の御口に適ひしは梅ならぬ柳の手際なり今其後段を
調進するに師教は忘れ祿ど割烹一ツも能ぬ掴新理の亂造は鰤鮫の刺身血の滴る
ほど絞ても出ぬ智慧稟辨厨嚢へ餘飡拾ひしぶるぞりゆにて箸を下さんしたるも
あらじ柳本文には賀宴の度舞樂の興行必ずり此に代るに能猿樂カブキの所作
更さへ取出せど水物細工の菊山茶花奇麗揃も又例のと厭ましくや思めさんその
物を其ものでいさせも却てきまとかれらんかゆゑ本編には舞樂を舞樂でしたるせず繪
樣の少異なるに潤沢のなれ乾物の椎茸于瓢を補景て由縁らしくらんしたるぞりと
飲食仕立も古代は新理人をかしてぞと稱しと同じ巻の名も柏木に因れるなり

安政庚申孟陬

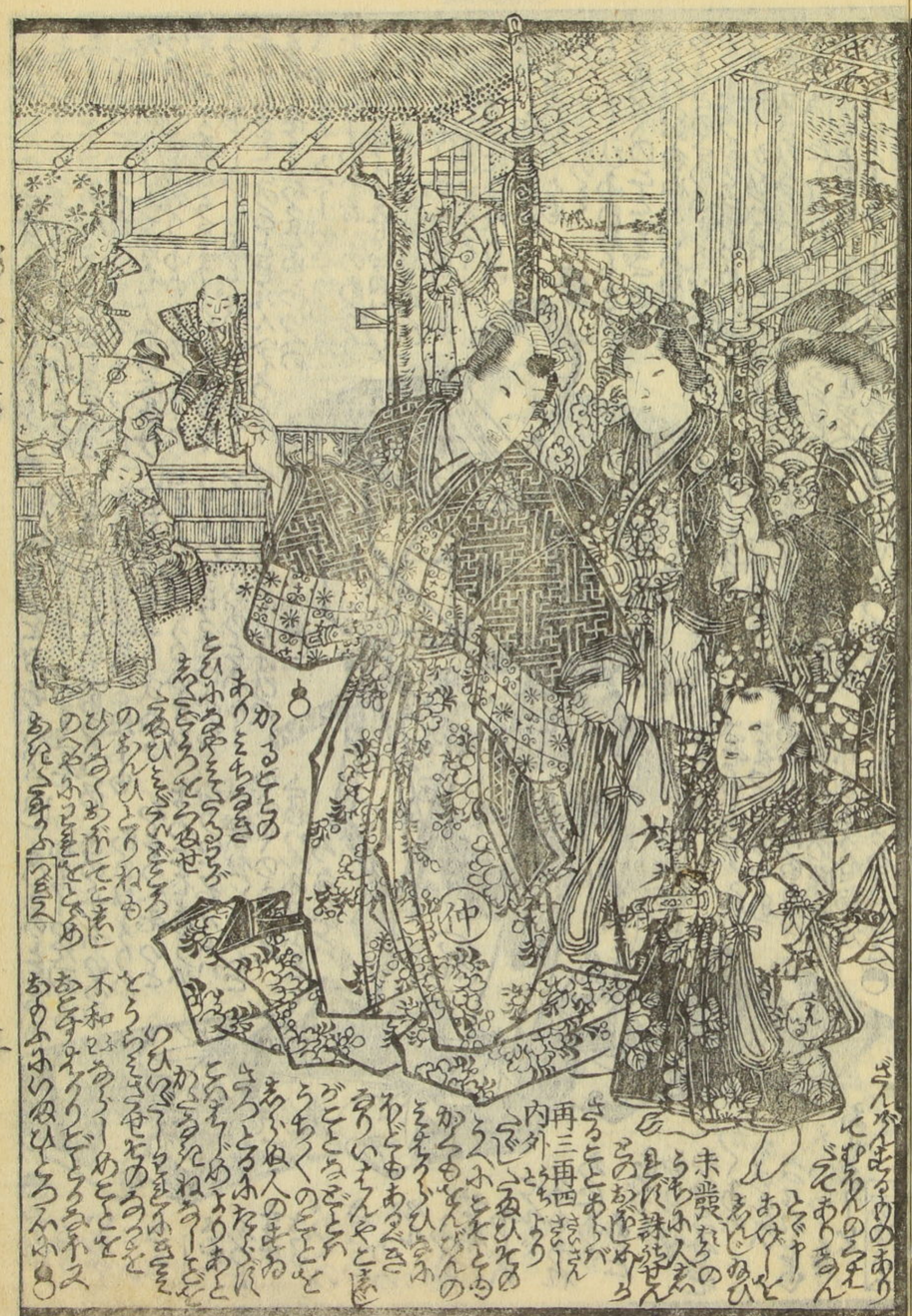
柳亭種秀

若菜下の御賀ハ朱雀院の
御五十ヵ度にて
由縁ゆくいへば
前武將義尚
入道淵田大僧正に
おもしまれたる故ありて
此君を三年已前薨御ありと
作ることハ ☒

☒藤の方乃尼君ヵ以ゆるとて
藤壺の宮ハ源氏にてハ既く
薄雲の巻に薨御ことゆふ
なるを翁も心ありて書漏さしが
今不意用に達も師の遺賜の
むとつなりの

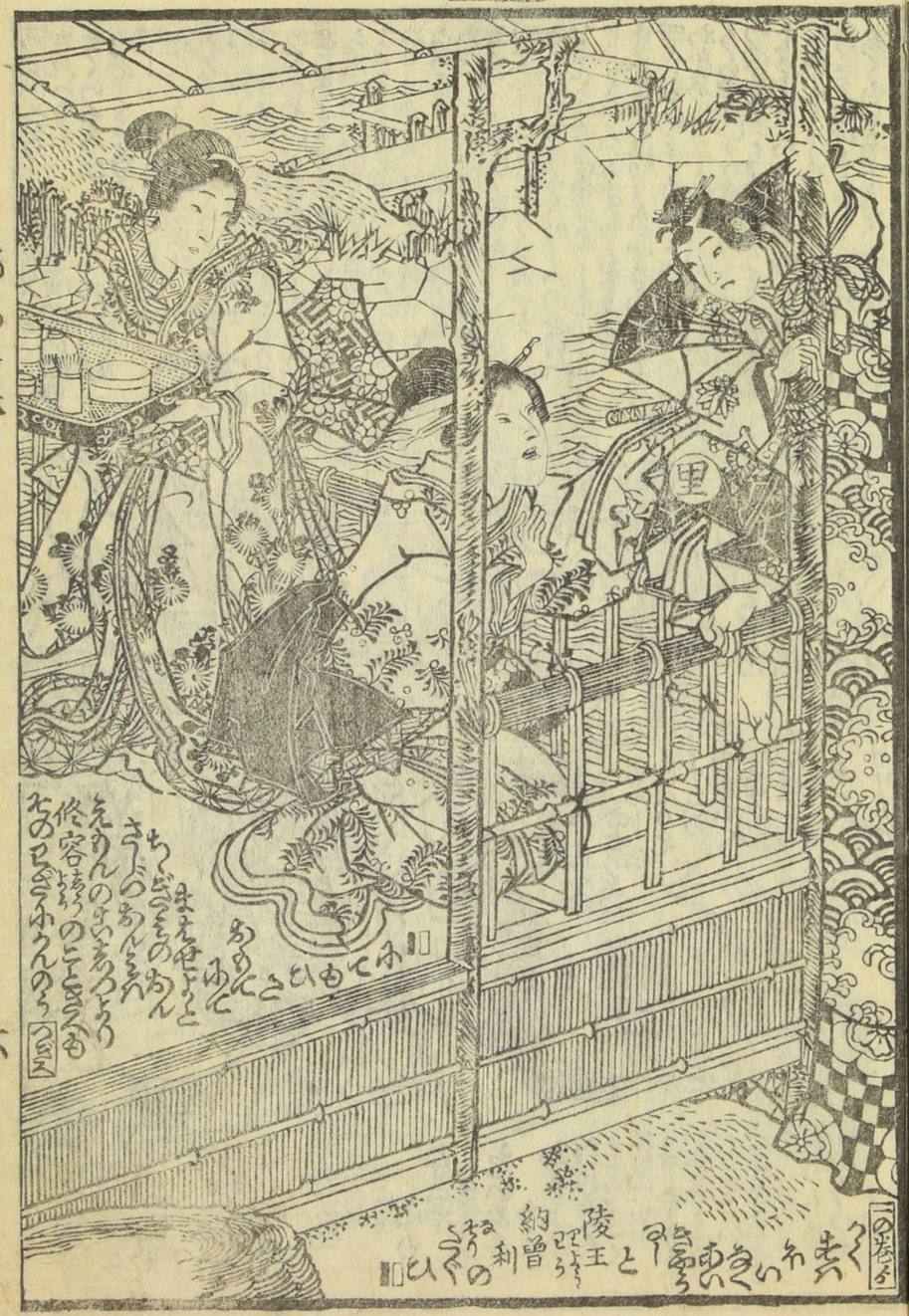
新参
敷浪鼕次

○倉千代
里若春王とも
氏仲の
男子也



仲

柏



里

つゞき なり
一色廣門の四男
旧頼丸

此二人は
四郎
正尚
の子
名ゆゑ
ハヾ

三ぶいのらびかしのなき
とそさいたりあしく
きこのかんどく
さつまとならば
らぢのそむところ
ところよくこきいてき
おぜんをさてらびたちの
ふくせんらぢたち
人の
たち
なしが暴病
あとり
なさんとそろらひ
こそありぞこれ
あまどくさ人まつらぞ
ちくたくさつらぶこのおち
たおや子のらぢさとの
こそろらひうこうひや
のこならぶもりも

かれ
あきせんとかりふゆも
とてゆいひとゆもひと
まげくふぞさへよらい
せざりなまがらろとの
こちのらぢけなる

仲

柏

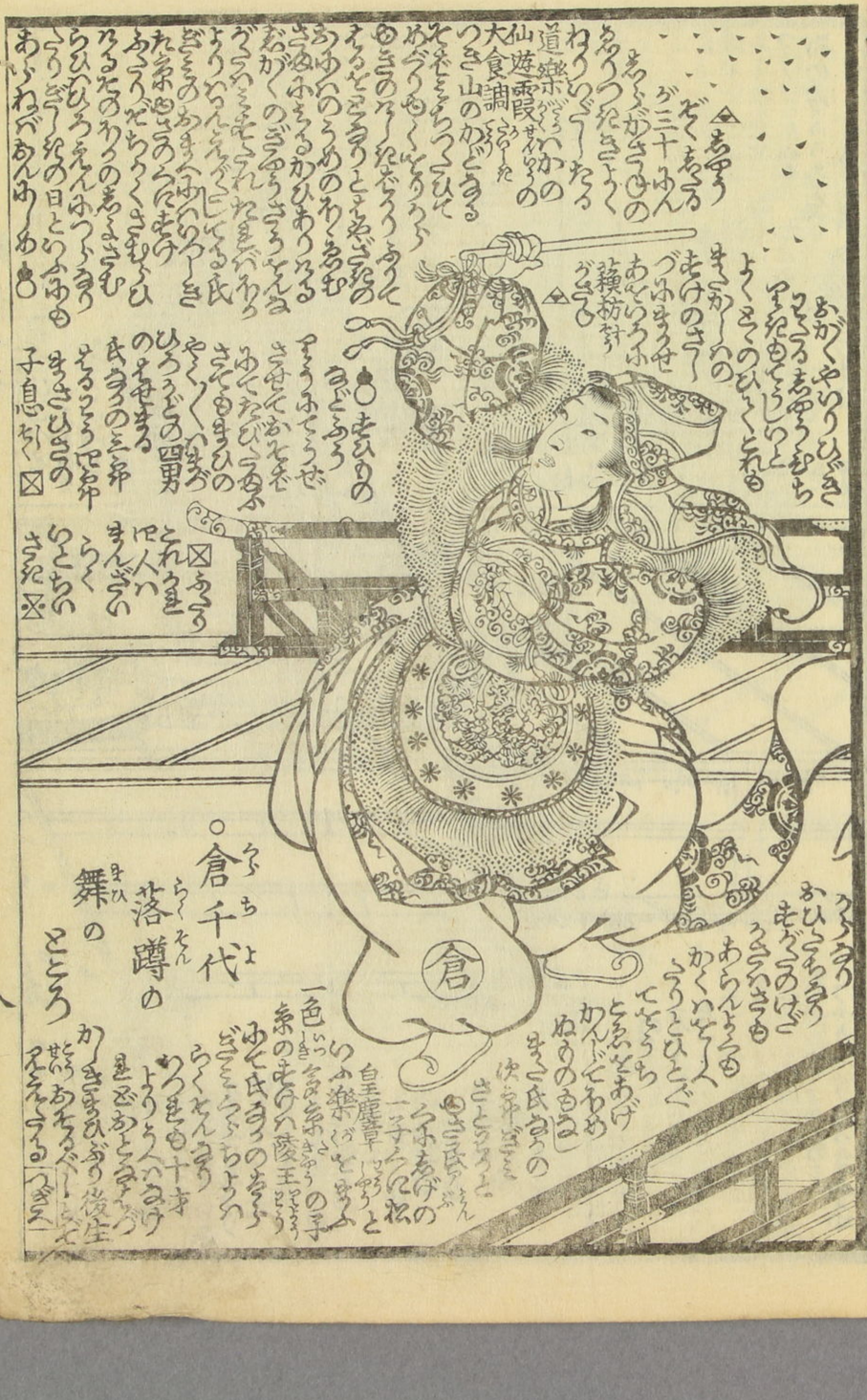
つぎ

うつろがしらのあひそさうかんのきよくそうりうのいろかわいのよくゆわひそくそさまぎこらよくようくさてのひ

▲かんのうるなとうのねのきよくにおろくとうふかくにおろくとちくさのこうにひくこおひづかはうれんをちくさのとうくさく

▲おいらーきのまさるこそさそるふときそゆも

▲



▲ちやうるぞくまさるぎ三十ゆんのろくつかさひのわろうつたきようくわろうひごうたる道薬ぼだいかの仙遊壱段せんゆうの大食調たいしきの山のかどうるそそそそろうくひてかぐうもくそろうろうそろそそろうとそざろのそーねそろうろうそろそそろうとそざろのろゆひのろめのわくるもさゆふそろるかひあろるおがくのぎゆうさうそんなぐろうそそれわるべわうようわくんぐにてる氏ぎこうのあまくゆひのうくきたふゆうだちくさむひろくたのわくのまくさむらひむうえんゆつようろうぎうぎうの日とうふゆもあいねべあんゆーも

▲おかくやりひぎきうそろまゆうまちとうしいとようそうのひくくれるまくかーうのまみのさーづふまうせあそいろふ鎮祈ぎごう

▲ちやうるぞくまさるぎ三十ゆんのろくつかさひのわろうつたきようくわろうひごうたる道薬ぼだいかの仙遊壱段せんゆうの大食調たいしきの山のかどうるそそそそろうくひてかぐうもくそろうろうそろそそろうとそざろのそーねそろうろうそろそそろうとそざろのろゆひのろめのわくるもさゆふそろるかひあろるおがくのぎゆうさうそんなぐろうそそれわるべわうようわくんぐにてる氏ぎこうのあまくゆひのうくきたふゆうだちくさむひろくたのわくのまくさむらひむうえんゆつようろうぎうぎうの日とうふゆもあいねべあんゆーも

○倉千代落蹲の舞のところ

一色いっしき糸のしらべ陵王りょうおうの手ゆたけくうつくしやかにさてもまひのやくくわざひろうごの四男のそせまる氏うぢの三郎そるうこう四郎まさひさの子息むすこ

▲ふうこれうまに人いまんざのらくのとちのさそた

おひうそろうもぐこのけざうこうさもあらんそうくうとひとぐそそろうちとうとそあげかんだくわめぬりのうこ

▲

白玉鹿草しらたまかそう

いふ楽がくをもよふうたひうたひ

ゆそ氏うぢのそうぐさこうらくそんうろもそ十才ようう人いうけ

▲きまうひぶり後生ごしやうあそろぐーうそ

つぎ　とのさまのごちそう　左ゟ　ひとつとゝ

太平樂えらく喜春樂　いろくづゝ

らくあふれうめの日もやく

らくれいねんぶつす

ぶつそうくいきん　かゝいのせつ

びやうふうめでたさえ　もちまくみ

そうくうる　めでたさこもみ

夕月かげ　えんぶちやうけるをとる氏

そやきえくき　ぎやくどくごらん

ひとあるくひとくれ　ゝまにあるこゝ

けれのそらもそうふ　りろく

ろくのさまのごちそう　くらべつゝ

ねのおうふくもの　さけふ

むうへんべ

ろくびやうびやう

さけふ

ちいうれそもる

のぶをかゝいろ

そていふこく

ろまろくよさそもく

きろうじやさる

そらそれをうまこそも

このくふうくいえも

あんじこくべつれと

いふものござさふ

ふ

ふろきこうとそんのうへん

ふろきこうとそんのうへん

あゆちさん

やくりのみくべこそト

かごこうじくのくまふふ

かゝいのようみいびやうく

うふちこのりうふ

ふまてちあとこれくう

ぬとあのふいつゆこく

ろひげれろくこいれのゆ

やうゆそれのあるんこべ

うひこいとうよの

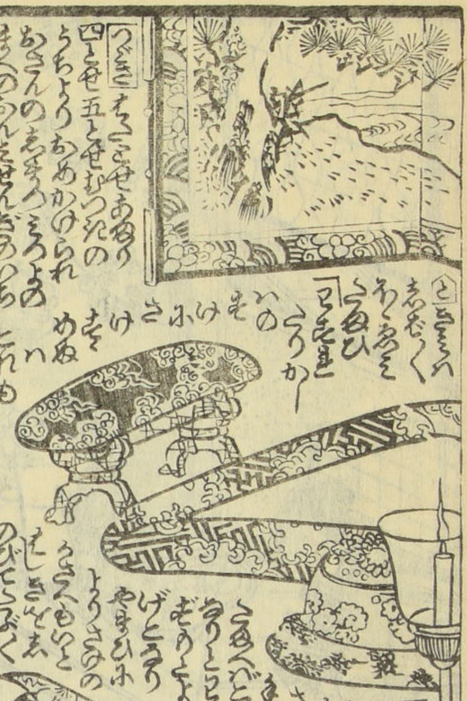
ちうへんのこふ

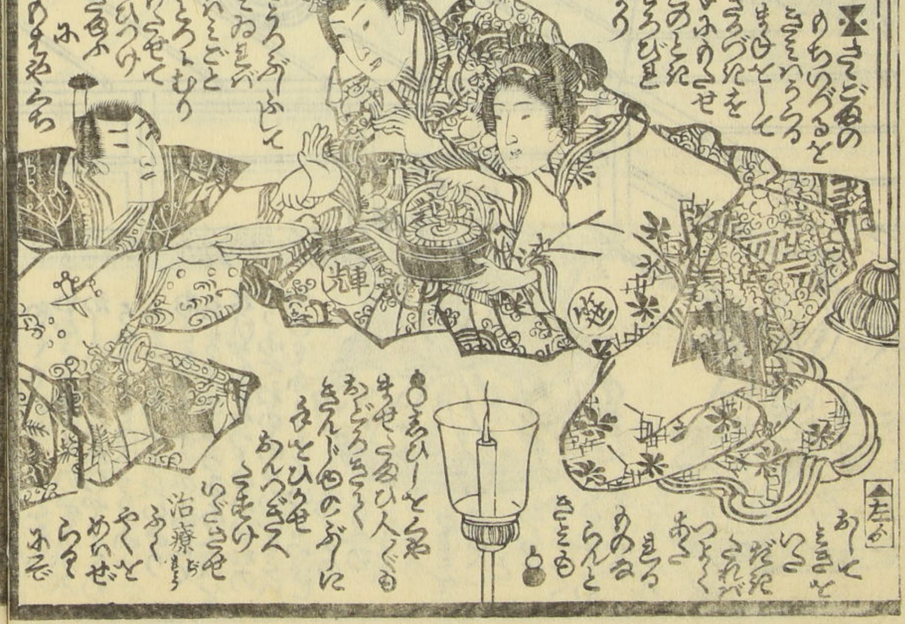
うとそみじと

あげすめふくわ

うへん

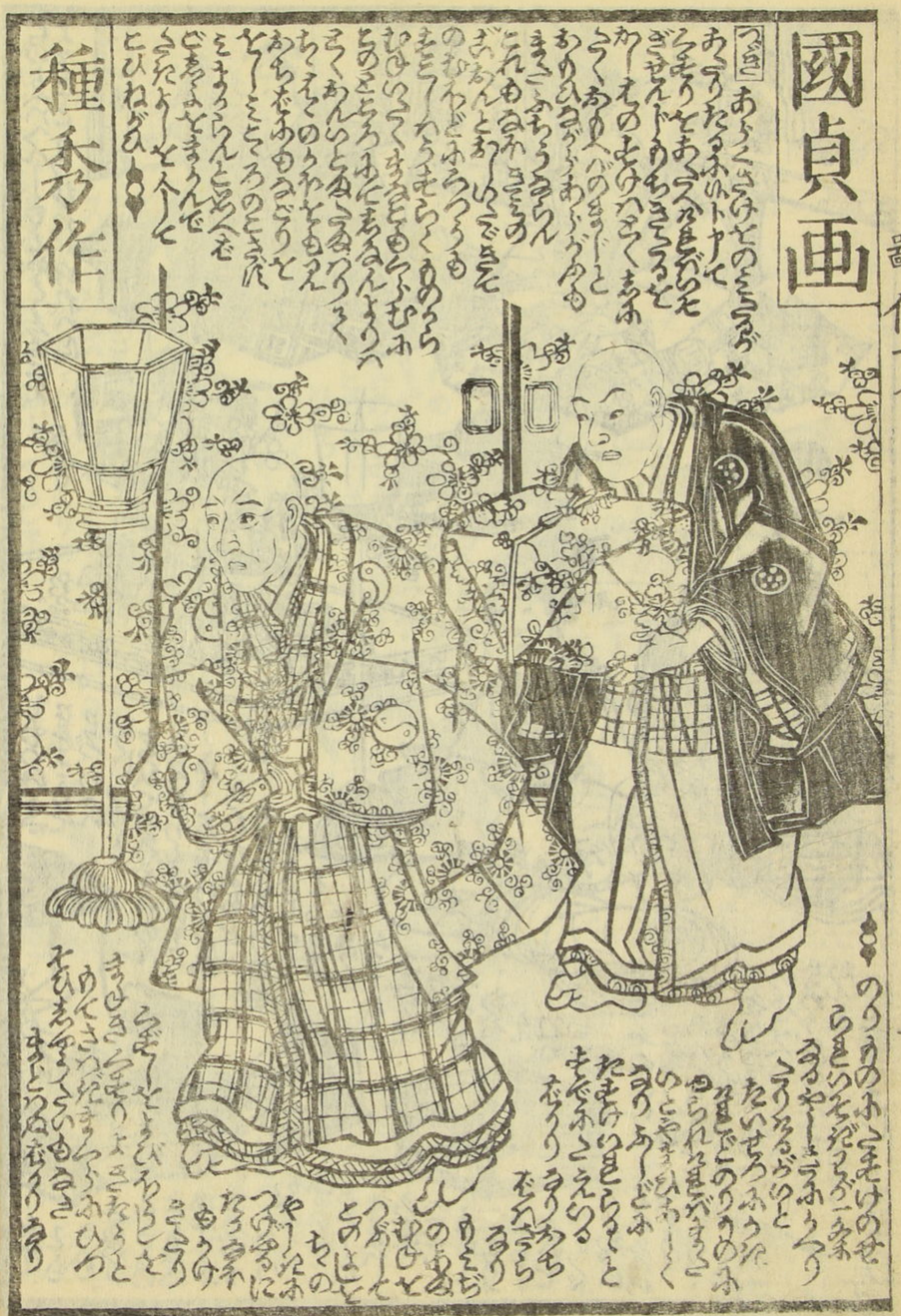
九





國貞画

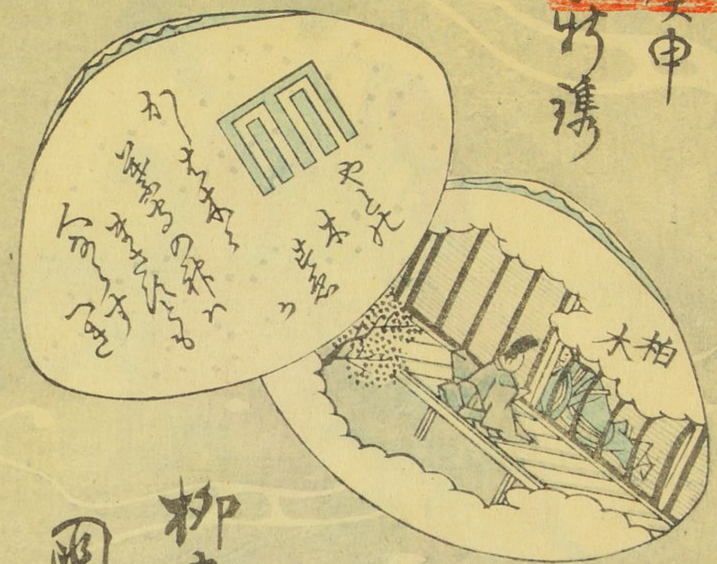
種秀作



へ13
3730
34

門へ13
號3730
巻34

寅申
竹瀬

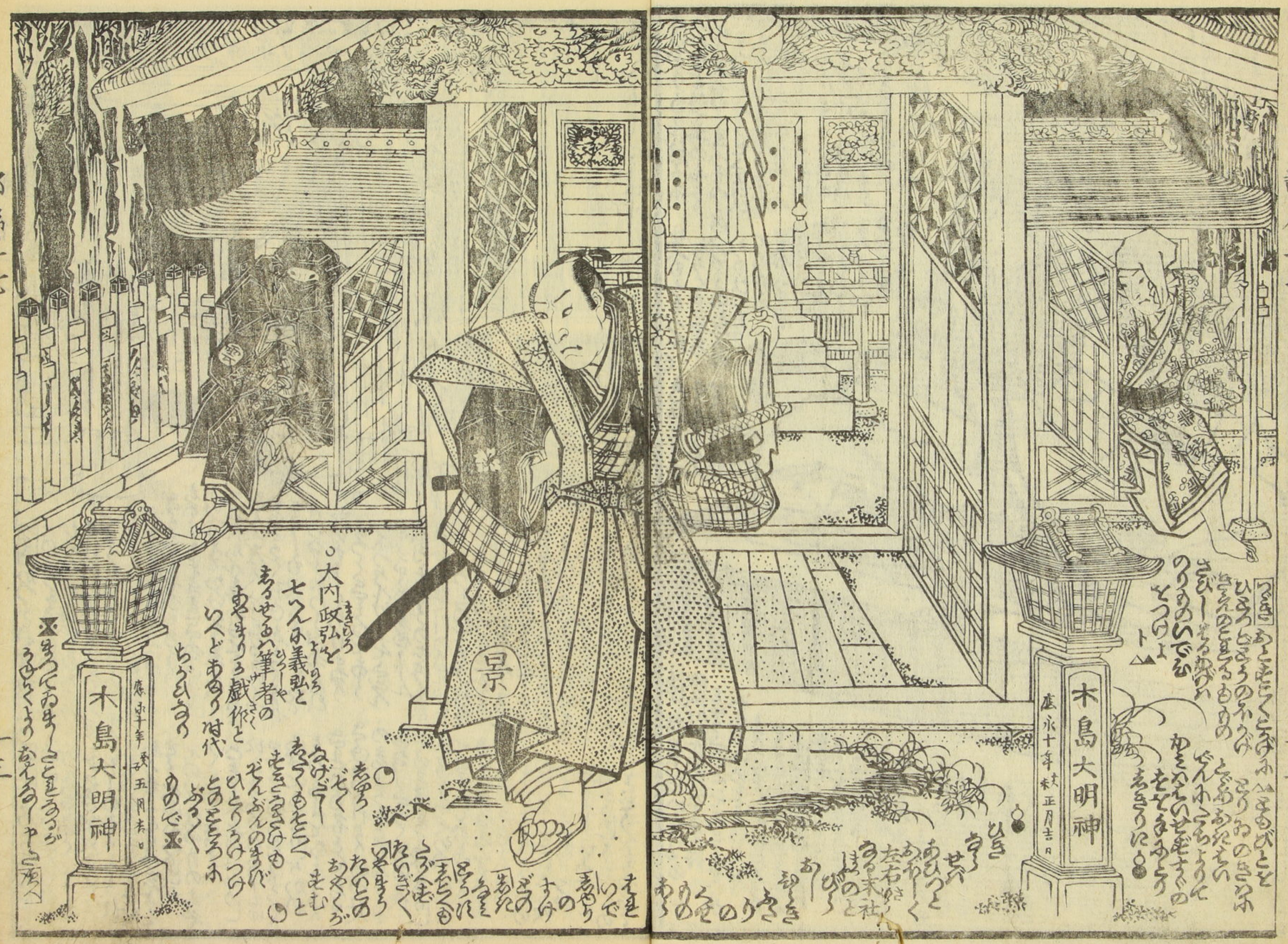


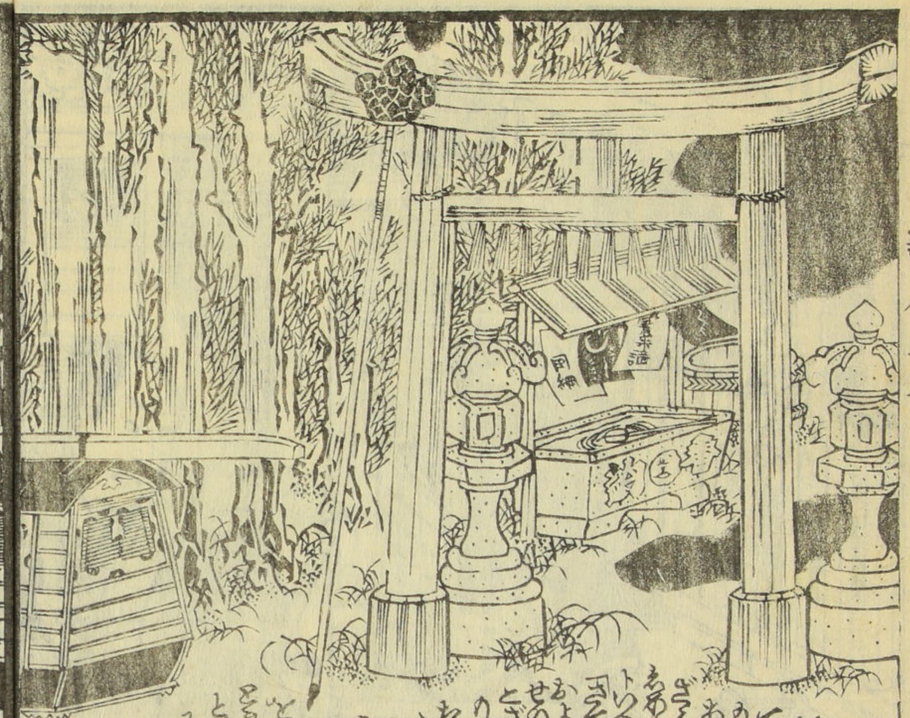
鄙れ面影

十七編下

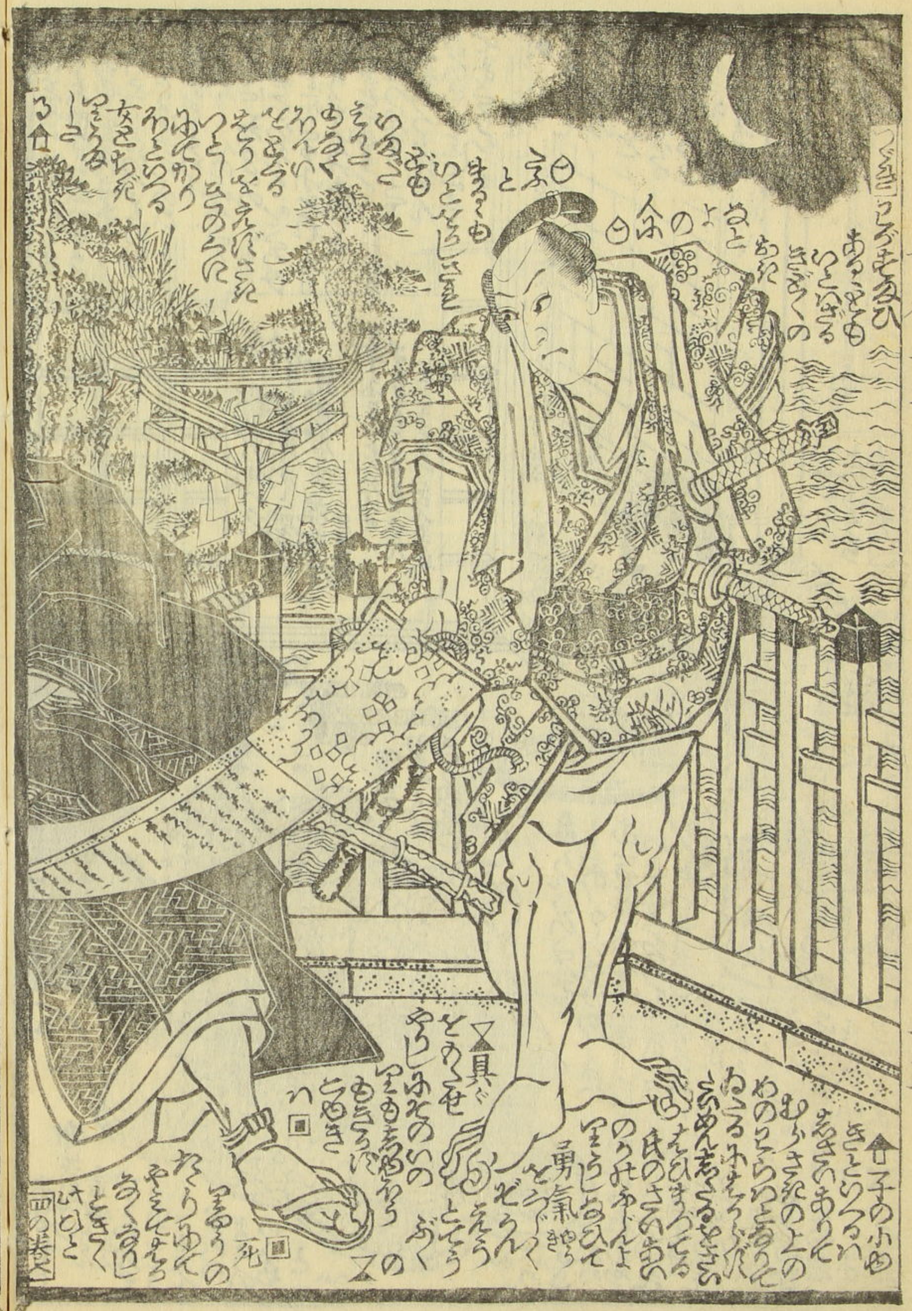
柳亭作
國貞画
笑壽屋板

御掃頭の墓
仙童快樂の体
陶村修埋亮


木島大明神
木島大明神
景



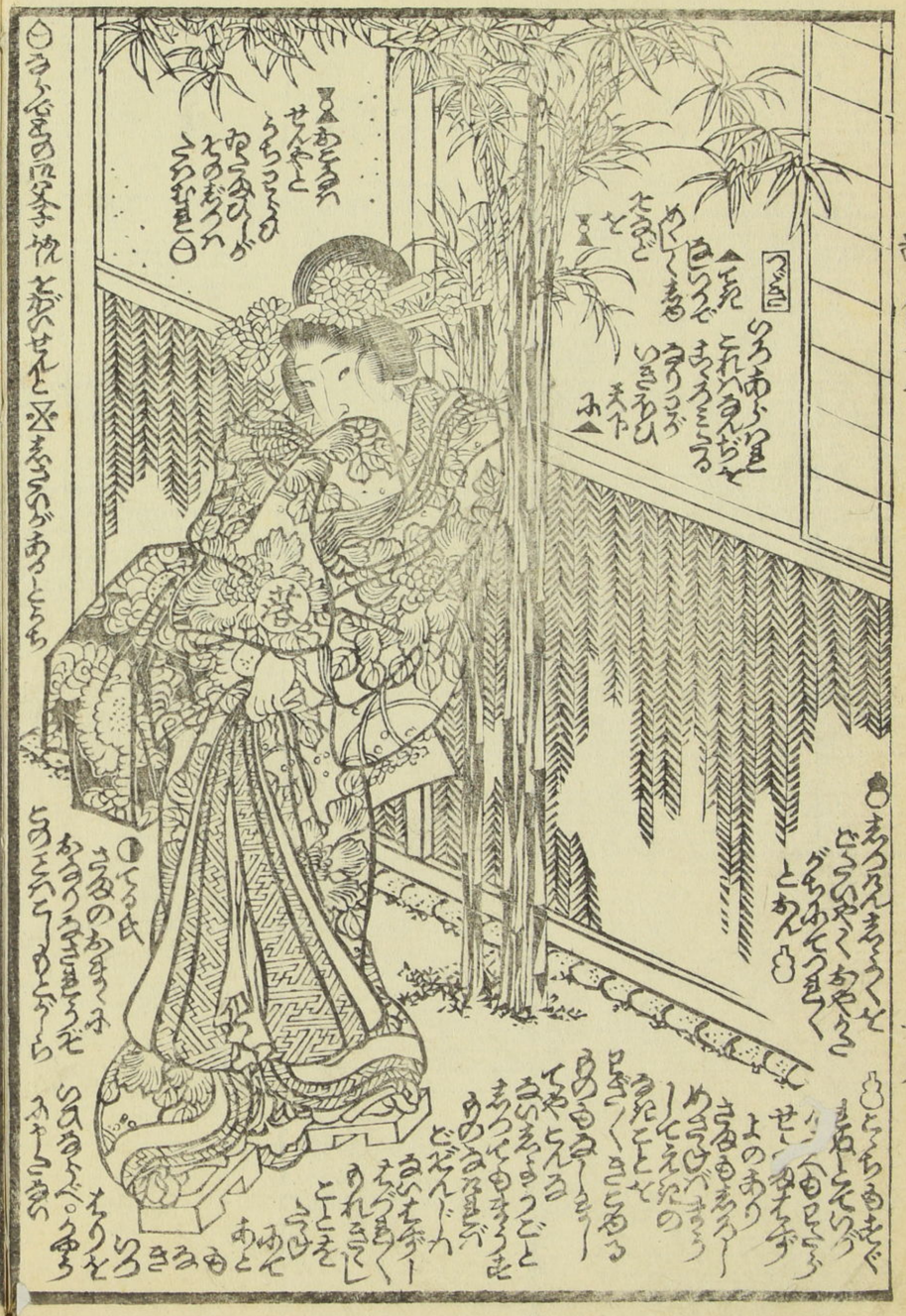
清楚貨

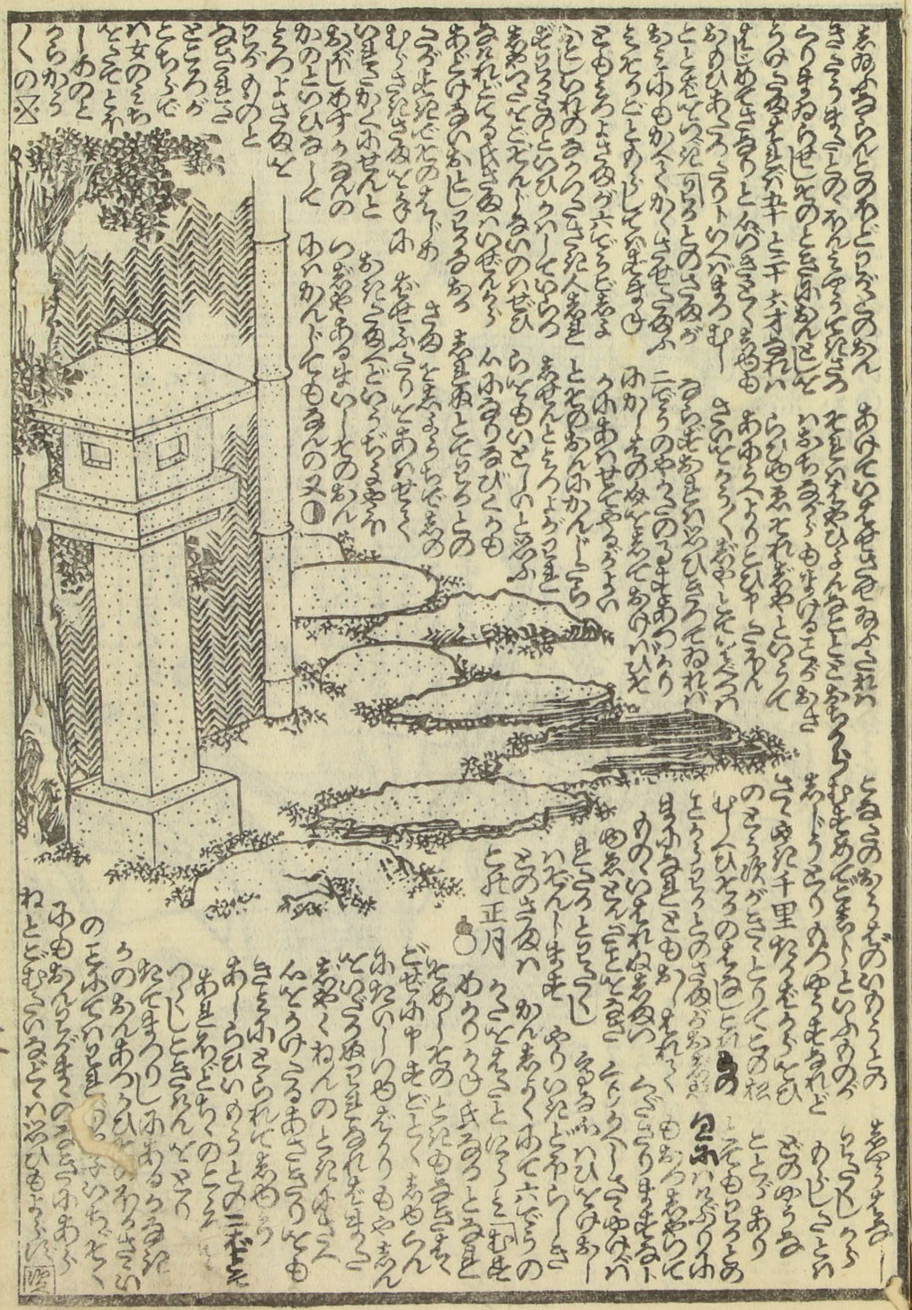


三の巻か
雲

つぎは　かげきよそうがあらばぶ
あみのえぞぶつえんかり
ぬぐあらつふうそうろぶ
うれをおひそのぶそこち
さスンルまぶかしそのぶけへ
ろろとそめをつくるうへ
かのづえそうみもうれぞ
のにしおれがうかりつ
さらんとつあつのてものり
あづぶふどろうひつぐと
のちくもんもうさまべ
そまふんぐろのかれんごこ
どうーぐろのにさうそろぐ
ろろーひうんんにてるを
さくやちくるれうるがい
ろふやそくおとうくるが
つくやきんおもんべ
とうくい医張かんそうひる
そんあぢまろをそるせんと
まろやはしあれがりぐかせん
とんろうがあそーへ
もうろうしあさのと
いるかるにいのぬ
とのうろうやまひの
こぎろかのうをこそ
人ぐれのあぢろくとうひて
はかこーときのそもりいか
ちぐんぐとえあまそろうさ
あもの

ぶりと　つんでぬ　とこちち　とろち
これんのさあ　ぐんじゃ
いやゆもあを　あれをに　おぐうのこうぐの　ぐんへんわん　あるんとろく　とれらぐろく　ろうのぐにい　さそうとをう　さあまり　ぐれト　やとぐる　ぐいやふ　ぬあめ





梅蝶樓画 柳亭著 ㊁

傭書 交来